

活動レポート



2011年 納涼 みつけ夏まつり

8月6日(土) 16:30~20:00 見付小学校校庭



炎天下を避けて午後遅くに始まった夏まつりには、延べ1500人もの住民が集まって模擬店やゲームに列をつくり、踊りの会のリードで盆踊りを楽しみました。日が沈むと提灯と月明かりで祭りのムードは最高潮に。ビール片手のおじさん連も、浴衣姿の女性連も、走り回る子どもたちも、大いに盛り上がりました。

なお、東日本大震災による被災者への義援金としてチケット売上金から10万円を寄付しました。

見付学区 敬老会

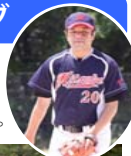
9月11日(日) 10:30~11:30 生協生活文化会館(本山)



高齢者はじめ約180人が参加。式典に続き、愛知県出身の山口晃司さんの津軽三味線の熱演に拍手を打ち、楽しいトークに笑顔が絶えませんでした。

見付OBソフトボールクラブ

2005年に“本気のチーム”として再結成。2006年リーグ戦で奇跡の逆転優勝を飾り、今年3月の千種学区区対抗でも準優勝しました。



部員大募集中！ 電話 751-6375 坪井まで

みつけ掲示板

成人式

例年より1日早く日曜日に举行します。

●1月8日(日) 10:30~12:30
見付小学校体育館

防災訓練

●2月26日(日) 10:00~
見付小学校校庭

高齢者の楽しい集い

ふれあい食事会

●3月5日(月) 10:50~
千種区在宅サービスセンター

就園前の親子の広場

ふれあいサロンみつけ

●12月14日(水) ●2月22日(水)
10:00~11:30
千種区在宅サービスセンター

環境デーごや

クリーンキャンペーン

●6月2日(土) 午前 見付学区内

見付小学校卒業式

●3月19日(月) 10:00~
見付小学校体育館

編集
後記

ゴミや防災に目を向けるようになったら、これまで自分や家族の安全にかかわる重要なことを平気で他人まかせにして暮らしてきたことに気がきました。編集室 電話：782-6863(黒岩) e-mail：Hourensou@lincom.co.jp

●特集

見付のゴミを考える

●活動レポート

みつけ夏まつり
見付学区敬老会
見付OBソフトボールクラブ
見付小/開校30周年を祝う会

●みつけ防災会だより

●みつけ掲示板

みつけ 第4号

ホウレンソウ

手づくり学区報

報告 連絡 相談

[特集] 見付のゴミを考える—1

ゴミを捨てるということは・・・

かつて古代人が狩をしながらかつて旅をする生活をやめて定住を始めたときに、ゴミの悩みが生まれたそうです。当時は比べものにならない巨大な人口を抱える大都市に住む私たちにとって、膨大なゴミの処理は最重要課題になりました。見付学区のゴミと資源について、保健委員といっしょに皆さんも考えてみませんか。

ゴミは誰のものでしょうか？

さっきまではおいしい食べ物や大切な日用品だったのに、ゴミ箱に捨てた瞬間からそれらは「ゴミ」になります。

では、玄関前の道路やマンションのゴミ置き場、資源ステーション(集積場)に出した「ゴミやリサイクル資源」は誰のものでしょうか？もう捨ててしまったのだから自分の所有物ではない気がします。でも、まさかお隣さんや町内会のものではありませんね。

だとすれば、収集車が持って行くまでは「出した人」が気にかけているべきだと思うのですが、いかがでしょうか。

マナー違反と決めつけるより・・・

この問題は一般に、ゴミ出しマナーの悪さや分別ルール違反とされることが多いのですが、そう決めつけても実状が改善されるわけではありません。なぜなら、ゴミや資源を放置してしまう人も、日常生活では社会的なマナーを守って生活している方ばかりですから、悪意を持って違反をしているというよりも、正しいルールを知らなかったり、勤ちがいが原因と考えられるからです。



ゴミ問題の改善は、排出者責任の自覚から

ゴミ問題を解決するもうひとつのポイントは「ゴミや資源は出した人の責任」という考え方です。これを「排出者責任」とよび、生活から生まれる廃棄物

はゴミの元となる製品を作ったメーカーと、それをゴミとして捨てた消費者に責任があるとされています。

もちろんゴミの処理は名古屋市が行政として実施していますが、私たち住民も、自分が出したゴミやリサイクル資源について他人まかせにせず、いつも気にかけていることが大切です。そうすれば、地域のゴミ問題は、もう少し改善されていくのではないのでしょうか。

取り残されゴミやリサイクル資源は誰が片付けるべき？

出し遅れたゴミが残されたり、カラスに散らかされたりしたとき、自宅の前ならその家の人が片付けます。しかし資源集積ステーションやマンションの共同ゴミ置き場に残ったゴミや資源を自分で片付ける人は少ないようです。

そこで、保健委員や整理当番の方が資源ステーションの後片付けを受け持つほかにというのが実状です。でも、これって何か理屈に合わないような気がしませんか？

【特集】 見付のゴミを考える—2 保健委員レポート

見付のゴミ・リサイクル資源の現状と問題

1. 間違えやすい「プラスチック」

今年の4月から始まった「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の新しい分別方法は、複雑さもあって当初はかなり混乱がありました。最近ではほぼ定着してきたようですが、まだまだ徹底されていないのが実情です。

- 「プラスチック製品」は「可燃ゴミ」です。
- 「プラスチック製容器包装」はリサイクル資源です。資源収集の日に、各戸の前かマンションのゴミ集積場に出してください。資源ステーションには出さないようにお願いします。

Q. プラスチック製容器包装が各戸収集になった理由は？

A. たいへん量が多いので、保健委員やステーションの整理当番の方の負担が大きかったためです。

2. ゴミと格闘する保健委員

保健委員は、保健所や環境事業所と協力しながら、暮らして密着した地域の保健衛生を守る役割を果たしています。ゴミ・資源に関しては、収集日や分別方法を地域住民に周知するとともに、資源回収日に各ステーションを巡回し、問題がある場合に次のように対処しています。

- ステーションに出された資源を正しく分別し直す
- 分別ルール違反の袋に張り紙等をして警告する
- 収集されずに残った資源を持ち帰って出し直したり、環境事業所に連絡して処理してもらう

なお最近では、ステーションの整理は利用世帯が分担して受け持つべきであるという考えから、学区12自治会のうち9つの自治会で整理当番を輪番制にしています。

見付小学校 開校30周年を祝う会

11月1日(火)10:00~12:00



式典：首藤校長先生のお話し



式典：児童よるこびの言葉、校歌斉唱



出演のGONNA(ガナ)と共に盛り上がる会場

保健委員の本音

「プラ容のルール変更で混乱を心配していましたが地域の皆さんがとても協力的でうれしかった！」

「個人がきちんと分けて出せばゴミ処理にかかる膨大な税金を大切に使うことにつながる。」

「ゴミは地域全体の問題。保健委員だけの問題ではない！」

「つけたまま出されたビンの中フタやペットボトルのフタを取るのに苦労しています。」

「ガラスの食器や割れたガラス板、陶器片は不燃ゴミです。空きびんのカゴには入れない！」

「リサイクル資源を出すときは既に収集済みかどうかをよく確認し後出ししないようにしてください。」

「保健委員になってゴミに関心が出ました。ステーションの整理係を輪番制にすれば皆さんの関心が高まると思います。」

「不燃ゴミ収集は月1回です。決められた日以外には出さないでください。」

(アンケートより)

3. 分別ルールが守られない原因

生ゴミと不燃物を混ぜたり、リサイクル資源をひと袋にして出されることがあります。これはマナーが守られないというよりも、市外から転入された方が複雑な名古屋市の分別ルールを理解しにくいことも原因のひとつと考えられ、正しい情報を分かりやすく伝える工夫が求められます。

また、ステーションを共同利用している賃貸マンションの多くは整理係の輪番に参加していません。このため資源分別への関心が薄く、新規入居者への分別ルールの徹底も不十分なことが問題点として保健委員から指摘されています。

4. しっかり分別しないとこんな問題に

■発火性危険物で火災事故が頻発

毎年、千種区だけで数台もの収集車の火災があり、大型プレス車が全損すると購入に1台1千万円(税金)もかかります。また平成20年に大江破碎工場で火災事故が起こり、全面稼働までに1年の期間と30億円もの費用を要しました。

■圧縮できないフタつきペットボトル

ペットボトルをキャップが付いたまま出すと、空気が抜けないために圧縮することができず、困っています。

いま私たちにできること

ガスボンベやスプレー缶などの発火性危険物は、内容物を使い切り、缶に穴を開け、可燃ゴミの収集日にゴミとは別の資源袋の中味の見える袋に入れて出しましょう。

ペットボトルはフタや中フタを取り、中をゆすぎ、できるだけつぶして出しましょう。

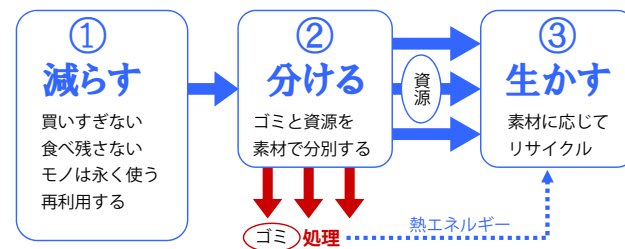
こんな方法もあります。

カラスの害が深刻です。生ゴミだけをカラスから見えないように新聞紙などで包み、黄色のネットをかぶせると効果的です。荒らされたゴミは、出した人が片付けましょう。

決して理想ではない「大量リサイクル社会」

ゴミもリサイクル資源も、減らす、分ける、生かす。

ゴミと資源を細かく分別してリサイクルの比率を高めることは、ゴミの減量にとって大切なことです。とはいえ、大量のリサイクル処理を必要とする社会が理想とはいえません。これからの方向としては、膨大な廃棄物が発生しないよう、できるだけ減らしていく暮らしや社会が求められています。



「見付学区の防災を考える会」が活動を開始

前号でお伝えした「見付学区災害対策委員会」は正式名称を「見付学区の防災を考える会(略称:みつけ防災会)」と定め、活動を開始しました。

現在のメンバーは区政協力委員会の山田委員長のもと、各町内から有志の参加を得て14名で構成されています。会ではまず基本的な防災知識を学ぶことを皮切りに、着実に活動を積み重ねて

いくことし、基本理念と目標、これからの活動の方向を確認しました。メンバーは3つの分科会に分かれ、具体的な活動計画作りを始めたところです。

活動内容は順次お知らせしていきます。

防災会メンバー募集中!
問い合わせ: 金谷 TEL 782-5087

【基本理念】

- 1 真に機能する見付学区の防災・救援計画を策定し、必要な資機材を配備する。
- 2 平常時には、住民が互いに助け合える防災力のあるまちづくりを推進する。
- 3 災害時には、学区救援対策本部の中核メンバーとして救援活動に従事する。